



湘南
スターモール
完成

昭和62年(1987年)3月27日に、「湘南スターモール」がオープンしました。中央十字路には高さ18メートルのシンボルモニュメントが設置されました。



岐阜県
高山市と
友好都市に

市制施行50周年記念事業として、友好都市の相手方を市民に募ったところ高山市が選ばれ、昭和57年(1982年)10月22日に提携を結びました。



平塚球場が
完成

昭和60年(1985年)、総合公園の最初の施設として完成。高校野球や社会人野球などアマチュア野球の試合会場として多くの市民に利用される他、プロ野球の公式戦にも利用されています。

平塚市の主な出来事(1973~1988)

昭和48年(1973年)	駅ビル「ラスカ」がオープン
昭和49年(1974年)	平塚大橋が開通。第1回緑化まつり開催
昭和50年(1975年)	福祉会館が完成。市宮錦町駐車場がオープン
昭和51年(1976年)	博物館が開館
昭和52年(1977年)	高村団地が完成。人口が20万人を突破
昭和53年(1978年)	岡崎地区で住居表示を実施
昭和54年(1979年)	成人式が市民センターでの1会場方式で初めて開催
昭和55年(1980年)	教育会館、勤労会館が開館
昭和56年(1981年)	びわ青少年の家が完成
昭和57年(1982年)	中央公民館が開館。岐阜県高山市と友好都市提携
昭和58年(1983年)	浜岳地下道が完成
昭和59年(1984年)	岩手県花巻市と友好都市提携
昭和60年(1985年)	平塚球場が完成
昭和61年(1986年)	新湘南大橋が開通
昭和62年(1987年)	平塚競技場が完成
昭和63年(1988年)	市内10カ所に新しく市民窓口センターを開設

博物館
開館



図書館の建設に続いて、昭和51年(1976年)、「相模川流域の自然と文化」をテーマとしたプラネタリウム付きの地域総合博物館として開館しました。

平塚競技場が
完成



昭和62年(1987年)、総合公園の中核施設として、総面積約31,000平方メートルの競技場が完成。幅広いスポーツ活動の場として市民に親しまれています。現在では湘南パルマーレのホームスタジアムとしても知られています。



駅ビルがオープン

昭和48年(1973年)6月26日に、国鉄事業による駅ビル第1号として平塚駅ビル「ラスカ」がオープンしました。オープンしたビルの中には、ショッピングセンターの他にも住民票などが取れる駅ビル連絡所もありました。

1973-1988

新しい時代の風を受け飛躍するまち

市制施行から半世紀を迎えた平塚市

高度経済成長期を経て社会全体が活気づいた時代。大規模な集合住宅の建設が進み、人口が20万人を超え、各産業が均衡を保ち、市民の生活基盤を整える中核都市として成長します。

1973年[10月1日]DATA 人口180,811人/世帯数49,329世帯/面積67.88km²/人口密度2,664人/km²

明るく住みよい
まちを目指して

戦後、約20年間にわたり経済成長を続け、社会全体が活気づき、人々の生活は豊かになりました。平塚市内でも大型団地などの建設が相次ぎ、昭和52年(1977年)に平塚市内で一番大きい規模を持つ日本住宅公団の集合住宅(高村団地)が完成すると、同年4月4日に平塚市の人口は20万人を超えます。人口の増加に伴い、新しい小・中学校が開設され、人々の暮らしを重視した施設の整備が進められました。

昭和57年(1982年)、平塚市は市制施行から半世紀を迎え、記念事業としてさまざまな事業を実施しました。4月1日には、まちに愛着を持ってもらおうと、市民の木として「くすのき」、市民の花として「なでしこ」が制定されました。また、市民の推薦のもとに、平塚の代表的な景色や景観として湘南平、金目川と観音堂、七国峠・遠藤原、霧降りの滝・松岩寺、森の前鳥神社、八幡山公園、湘南潮来、平塚砂丘夕映えが平塚八景に決まりました。同年7月1日には中央公民館が開館し、記念祝典が開かれました。

そして、市制施行50周年記念事業の一環として始まった総合公園の整備では、昭和60年(1985年)に平塚球場が、昭和62年(1987年)には平塚競技場が完成します。



馬入・光と風の花づつみ

平成9年(1997年)、ごみが多かった河川敷を花畑にして水辺に親しんでもらおうと作られました。季節ごとに色とりどりの花が咲く花の名所、憩いの空間として市民に親しまれています。

年	出来事
昭和64年(1989年)	神奈川大学平塚キャンパス開校。ひらかけグリーンタッチ'89を開催
平成2年(1990年)	湘南ケーブルネットワーク開局。ローレンス市と姉妹都市調印
平成3年(1991年)	総合公園が全面オープン。美術館が開館
平成4年(1992年)	学校週5日制が始まり、第2土曜日が休みとなる
平成5年(1993年)	ベルマーレ平塚のJリーグ昇格が決定
平成6年(1994年)	F1湘南パサ開局。湘南自動車検査登録事務所が完成し、湘南ナンバーが誕生
平成7年(1995年)	湘南ひらつかビーチセンターがオープン
平成8年(1996年)	なぎさふれあいセンターがオープン。囲碁多面打ち大会が始まる
平成9年(1997年)	花畑馬入・光と風の花づつみが完成
平成10年(1998年)	日向岡トンネル開通。かながわゆめ国体で4競技を開催
平成11年(1999年)	青少年議会開催
平成12年(2000年)	七都県市合同防災訓練を開催
平成13年(2001年)	馬入水辺の楽校がオープン



湘南銀河大橋開通

平成10年(1998年)、湘南銀河大橋が開通。橋の名称は2,371通の応募の中から決定しました。



ひらつかグリーンタッチ'89

平成元年(1989年)、「みどりと語ろう 花と遊ぶ」をテーマに、第4回かながわ都市緑化平塚フェア「ひらつかグリーンタッチ'89」が、総合公園で開催されました。イベントを記念して、「市民の木[すのき]と市民の花[なでしこ]」から生まれたマスコットキャラクターが誕生しました。



ベルマーレ平塚Jリーグ昇格

平成5年(1993年)、ベルマーレ平塚がJFL1部で優勝し、この年から始まったJリーグへの昇格を決めました。中田英寿選手など数々の名プレイヤーを生み出し、多くのサポーターに愛されるチームとなりました。



湘南ひらつか七夕まつり

戦後の復興の願いを込め、昭和25年(1950年)に開催された「平塚復興まつり」から始まった「七夕まつり」。活発な商業力に裏づけられた日本一といわれる七夕飾りは、メイン会場である「湘南スターモール」を中心に、豪華絢爛に通りを埋め尽くします。

1989-2001

創造とうるおいの25万都市

自然と共生するまちを目指す平塚市

平成4年(1992年)には、人口が25万人を超え、21世紀に向けてまちは躍進し続けます。

1989年[10月1日] DATA 人口242,247人/世帯数79,437世帯/面積67.88km²/人口密度3,569人/km²



総合公園が全面オープン

「昭和の城づくり」として10年がかりで整備が進められていた総合公園が、平成3年(1991年)に全面オープン。約30ヘクタールの広さを誇る園内には、平塚のはらっぱや、ふれあい動物園、わんぱく広場、日本庭園、桜の広場などの他に、本格的なスポーツ施設なども併設されています。



平塚のはらっぱ



流れの広場



わんぱく広場

平成に入り時代が大きく変わっていく中、平塚市も新たな表情を見せます。平成3年(1991年)には、総合公園が全面オープン。スポーツ施設の他、自然を生かした広場やふれあい動物園などが整備されました。同じ年に、メインテーマを「湘南の美術・光」とした美術館が開館。どちらも市民の憩いとやすらぎの場となりました。

平成4年(1992年)には、人口が25万人を超え、平塚市は躍進を続けます。平成5年(1993年)、ベルマーレ平塚(現湘南ベルマーレ)がジャパンフットボールリーグ1部で優勝し、Jリーグへの昇格を勝ち取り、ホームタウンである平塚市にたくさんの方々のサッカーファンが訪れるようになりました。また、平成6年(1994年)には、湘南自動車検査登録事務所が完成し、湘南ナンバーが誕生しました。

平成8年(1996年)には、戦前から横浜町に住み、日本囲碁界に多大な功績を残した木谷實九段をたたえ、囲碁の多面打ち大会が始まり、「囲碁のまちひらつか」としても知られるようになります。

21世紀を迎えた平成13年(2001年)には、相模川流域では唯一となる馬入水辺の楽校がオープン。訪れた子どもたちに、自然の中で遊ぶ楽しさを伝えていきます。

緑あふれる
うるおいのまち



花菜
ガーデン

平成22年(2010年)、季節の花や園芸・農業の魅力を発信する県立花と緑のふれあいセンター「花菜ガーデン」がオープンしました。

平成23年(2011年)	平成22年(2010年)	平成21年(2009年)	平成20年(2008年)	平成19年(2007年)	平成18年(2006年)	平成17年(2005年)	平成16年(2004年)	平成15年(2003年)	平成14年(2002年)	
駅西口第1駐輪場が完成。市内のビル所有者と津波避難ビルの協定を締結	ひらつか花アグリがオープン。湘南ひらつかパークゴルフ場がオープン	旧横浜ゴム平塚製造所記念館開館。散策路「浜辺のさんぽ道」開通。北口駅前広場パリアフリー化工事が完成	備前サミットを全国初開催	市内の主な市民利用施設にAED配備	台風9号の影響で相模川流域の約18300世帯に避難勧告を発令	馬入ふれあい公園・天然芝サッカー場が完成	「木谷實・星のプラザ」が市民センターにオープン。つどいの広場「もこもこ」オープン	ひらつかアリーナオープン。見附台体育館閉館	ひらつか市民活動センター、消費生活センターがオープン	市民の鳥「しらすぎ(コサギ)」を制定



紅谷町
まちかど広場

平成17年(2005年)、中心商店街の魅力とにぎわいを創出し活性化を図ることを目的に、紅谷町まちかど広場が作られました。



ひらつか
アリーナ
オープン

平成16年(2004年)、馬入ふれあい公園の中心的な施設として、ひらつかアリーナがオープンしました。モダンな外観が美しい体育館です。



旧横浜ゴム
平塚製造所
記念館開館

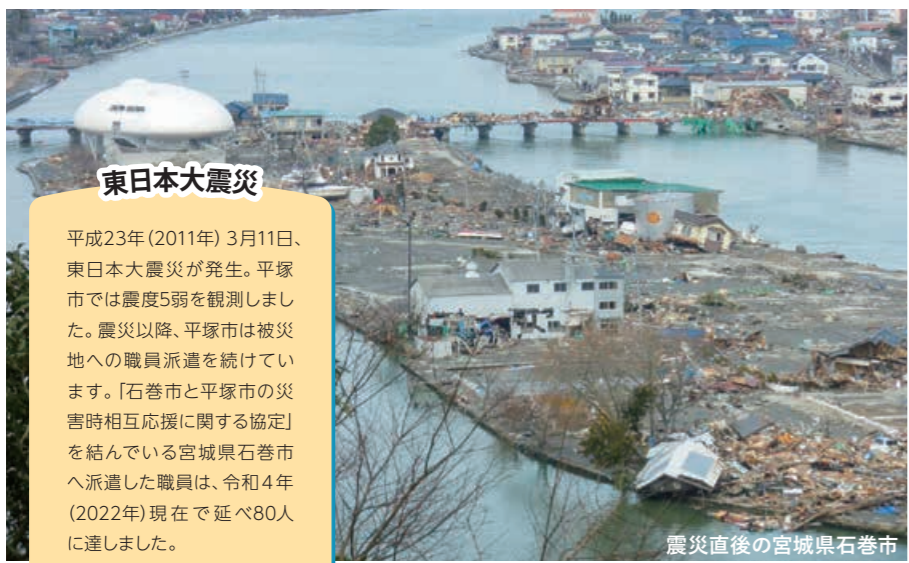


備前サミット
全国初開催



市民の鳥
「しらすぎ」
(コサギ)

撮影:岡根武彦さん



東日本大震災

平成23年(2011年)3月11日、東日本大震災が発生。平塚市では震度5弱を観測しました。震災以降、平塚市は被災地への職員派遣を続けています。「石巻市と平塚市の災害時相互応援に関する協定」を結んでいる宮城県石巻市へ派遣した職員は、令和4年(2022年)現在で延べ80人に達しました。

震災直後の宮城県石巻市

出所:東日本大震災アーカイブ宮城(石巻市)



津波避難ビルステッカー(意匠図)



停電した平塚市内のまち並み



W杯ナイジェリア代表チーム

平成14年(2002年)、日韓共催のサッカーワールドカップにおいて、湘南ベルマーレの本拠地である平塚市がナイジェリア代表チームのキャンプ地となりました。湘南ベルマーレとの親善試合には、約15,000人のサポーターが詰め掛けました。

2002-2011

市民が主役のまちづくり

地域の交流を深め、進んでいく平塚市

中核都市として、市民と共にまちづくりを進めてきた平塚市。移りゆく時代の中で、少子・高齢化の進展など社会全体の課題に取り組み、互いに支え合う温かいまちを目指していきます。

2002年[10月1日] DATA 人口255,058人/世帯数95,538世帯/面積67.88km²/人口密度3,757人/km²

個性が際立つ
まちづくりへ

平成14年(2002年)に、日韓共催のサッカーワールドカップが日本で開催。平塚市は、ナイジェリア代表チーム「スパーイーグルス」のキャンプ地となり、さまざまな行事に選手たちが参加し市民と触れ合いました。

核家族化や近所付き合いが希薄になる中、平成15年(2003年)に地域で子育てを支援するファミリー・サポート・センターを開設。さらに平成17年(2005年)にはつどいの広場「もこもこ」がオープン。子育て中の親子が気軽に集う交流の場として、新たな出会いのきっかけとなりました。

平成22年(2010年)には、農業振興と農業理解を進めるために、平塚市、神奈川県、JAそして農業者などが協力して金田地区に整備していた「ひらつか花アグリ」がオープンします。エリア内にある花菜ガーデンは、四季折々の花々などが楽しめる施設として、県内外から多くの来客を集めています。

平成23年(2011年)3月11日、東日本大震災が発生。日本全体を大きく変える災害であったと同時に、改めて人と人とのつながりの大切さを実感する出来事となりました。また、防災に対する意識は一段と高まり、これまでの被害想定を上回る津波被害に備えるため、津波避難ビルの協定を締結するなどの防災対策を強化しました。



消防署本署・
消防団第3分団
新庁舎

令和3年(2021年)、消防力の充実強化に向け整備を進めてきた、消防署本署・消防団第3分団の新庁舎が完成しました。

平塚市の主な出来事(2012~2021)

平成24年(2012年)	ごみ処理広域化に向け、平塚市、大磯町、宮町が協定を締結
平成25年(2013年)	静岡県伊豆市と友好都市提携。新環境事業センターが稼働
平成26年(2014年)	ひらつか障がい者福祉シヨップ「ありがと」を開設
平成27年(2015年)	国道134号の4車線化が完了。さがみ縦貫道路が全線開通。平塚市ツインシティ大神地区土地区画整理組合設立
平成28年(2016年)	リニア中央新幹線との事前キャンペーンに関する協定を締結
平成29年(2017年)	余熱利用施設「リフレッシュプラザ」が完成
平成30年(2018年)	新庁舎グランドオープン
平成31年(2019年)	市民病院整備事業が完了。湘南平(高麗山公園)開園60周年記念イベントを開催
令和2年(2020年)	ご当地ナンバープレート「デザインが海岸の夕陽」に決定
令和3年(2021年)	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、成人式をオンライン配信で開催。消防署本署・消防団第3分団新庁舎が完成



美術館
「金魚絵師
深堀隆介展」
観覧者数歴代
最多に

平成30年(2018年)7月7日から9月2日まで美術館で開かれた、金魚がテーマの個展「金魚絵師深堀隆介展 平成しんちゅう屋の観覧者数が6,637人に上り、同館の企画展として過去最多を更新しました。



オリンピック・
パラリンピック

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるリニア中央新幹線のホストタウン・共生社会ホストタウンとして、今回とさまざまな交流を行っています。令和3年(2021年)には、リニア中央新幹線のオリンピックが東京2020大会に向けた事前キャンペーンを平塚で行いました。



真田・北金目
特定土地区画
整理事業完成
(2015年)



シティ
プロモーション
本格始動
(2016年)

「手をつなごくなる街 湘南ひらつか」をスローガンに掲げ、平塚の魅力を発信しています。



ららぽーと
湘南平塚
(2016年)



市民病院



新環境事業
センター



新庁舎

三大事業
市民の暮らしを支え、安心・安全につながる事業として進められた三大事業。平成25年(2013年)の新環境事業センター稼働、平成30年(2018年)の新庁舎、平成31年(2019年)の市民病院のグランドオープンによって、全ての整備事業が完了しました。

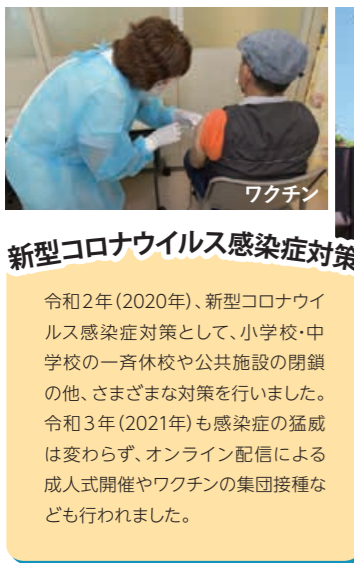
2012-2021

新時代に向けてさらに輝くまちへ

住み続けたいまちを目指す平塚市

戦災からの復興、高度成長、バブル崩壊……さまざまな出来事を乗り越え、時代は令和に変わり、平塚市はまちの魅力をさらに高め、次の世代にもつないでいきます。

2012年[10月1日] DATA 人口259,371人/世帯数105,369世帯/面積67.88km²/人口密度3,821人/km²



新型コロナウイルス感染症対策

令和2年(2020年)、新型コロナウイルス感染症対策として、小学校・中学校の一斉休校や公共施設の閉鎖のほか、さまざまな対策を行いました。令和3年(2021年)も感染症の猛威は変わらず、オンライン配信による成人式開催やワクチンの集団接種なども行われました。



駐車場閉鎖



窓口



成人式

平塚市はこれからも新しいまちづくりを進めていきます。県央湘南地域では交通インフラの整備が進み、国道134号の4車線化やさがみ縦貫道路の開通などにより、都心からの交通アクセスが向上。新東名高速道路の開通やリニア中央新幹線の開業など首都圏の交通の大変革時代に向けて、北の核となるツインシティ大神地区土地区画整理事業が進み始めます。北西部の真田・北金目特定土地区画整理事業が完成し、市街中心部では大型商業施設や病院が開業しました。

公共施設では、三大事業と呼ばれる新環境事業センター、新庁舎、市民病院の建て替えが完了。新庁舎では、災害に強い庁舎を目指すとともに、バリアフリー化など来庁者の利便性向上を図りました。

時代が平成から令和に変わると、令和2年(2020年)、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るいます。緊急事態宣言の発出や不要不急の外出自粛などにより、日本全体が大きな影響を受けました。そんな苦境の中でも、活気あるまちを取り戻そうと市全体で力を合わせていきます。

先人たちのためめぬ努力により築き上げられた、このまちの歴史や文化、優れた技術を持つ産業などの財産を基に、新時代へ向け持続可能なまちづくりを目指していきます。

持続可能な
まちづくりを目指して